



# 社会科教育論 説明型の授業づくり 「モンゴル襲来」

教育学部 第一類初等教育教員養成コース

B135388 飯田紗英

## 本時の目標

- モンゴルが日本に負けた理由を資料を使いながら、①戦い方②兵士の質③日本の封建制度の視点から説明できる

## 導入部

- ▶ モンゴルが日本へ襲来する前の功績を地図をつかって理解し、モンゴルは世界では恐れられていたことを知る。



←世界最大の支配領域であることを理解させる

《子供の反応》

- モンゴルって強かったんだ！
  - なんで日本は勝てたんだらう？ (小学校既習事項確認)
- ▶ 活動→モンゴルの敗因を追究せよ(資料読み取り)
  - ▶ 発問なぜ世界最強のモンゴルが日本に負けてしまったのだろうか。

# 展開 1 モンゴル敗因①得意な戦術で戦えなかった

- ➡ モンゴル民族はユーラシア大陸内陸出身の遊牧騎馬民族 = 騎馬戦術に特化 ← 内陸の戦闘は強い
- ➡ 日本の場合... 海上移動のため騎馬連れていけない ← 実力発揮できなかったのでは？



成功例(宋、高麗etc.)

騎馬隊を中心とした集団戦術

慣れた内陸での戦闘

失敗例(日本)

海上移動のため、騎馬を連れて行くこと不可能 ← 徒歩で参戦

慣れない海上や土地での戦闘



## 展開 2 モンゴルの敗因②兵士の寄せ集め

➡ 文永の役←兵士2万6000人

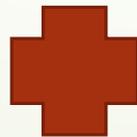
➡ モンゴル、高麗、漢人の混合軍

➡ 弘安の役←兵士14万人

➡ 東路軍(高麗)4万人 江南軍(寧波←宋の民)10万人

確かに人数は多いけど...

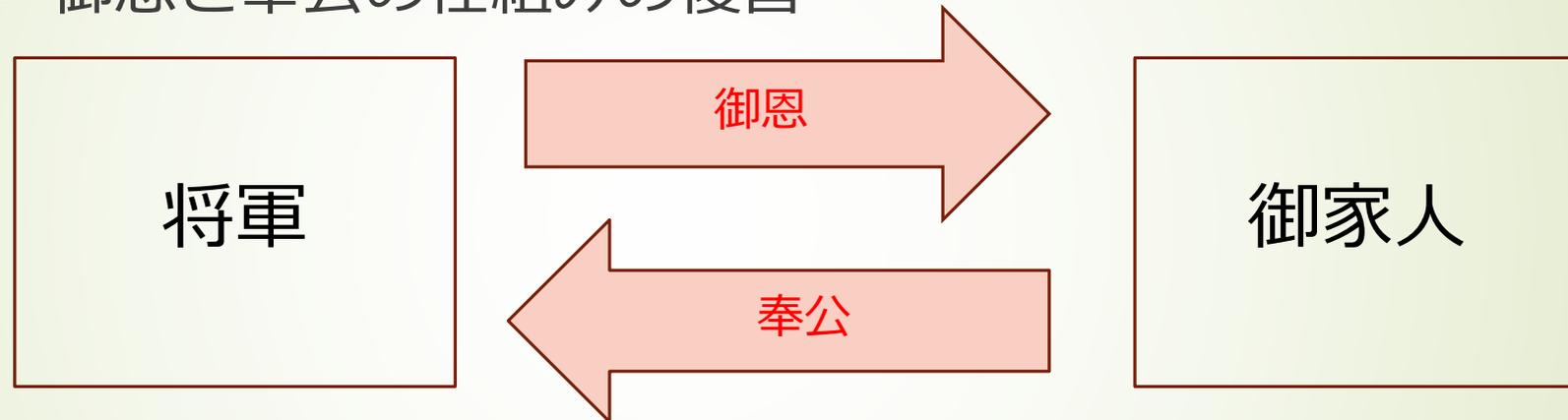
言語、文化の違う兵士の寄せ集めは意思疎通が図れず、指示が通らない



兵士は、国を滅ぼされ捕虜となった人々。モンゴルのために戦う気力はない=士気が上がらない

## 展開 3 モンゴル敗因③鎌倉幕府と御家人の関係

- 御恩と奉公の仕組みの復習



- 鎌倉幕府と御家人の関係は強固なものであった！
- ただし、国を救おうという意識はなかった

## 終結 モンゴルが日本に負けた理由とは...

### ①戦い方

モンゴル民族が得意とする騎馬戦術ができなかった

### ②兵士の質

多民族編成で、意思疎通が図りづらく、士気も上がらない寄せ集めの兵士集団であった

### ③日本の封建制度

将軍と御家人の御恩と奉公における封建主従関係による強固な関係があった

モンゴルは本当に最強だったのかな？

# モンゴル敗北における構造図および指導上の留意点

不慣れな戦い方

モンゴル敗北

日本の封建制度

兵士の質

1

戦い方

- ・モンゴル民族の二つの絵(ワールシュタットの戦いと文永の役)を見て、戦い方の違いやその背景に気づかせるようにする

2

兵士の質

- ・文永の役と弘安の役のときのモンゴル軍の人数や民族の種類を把握させることによって、多民族軍隊における弊害に気づかせるようにする

3

日本の封建制度

- ・小学校で習った日本の封建主従制度を振りかえさせ、強固な体制であったことにあらためて気づかせるようにする

## 参考資料

- ▶ 『蒙古襲来』上 1974 小学館ライブラリー
- ▶ 旗田巍『元寇』中公新書
- ▶ 杉山正明『モンゴル帝国の興亡』1996 講談社現代新書 下
- ▶ 『北条時宗と蒙古襲来』2001 村井章介 NHKブックス

ご清聴ありがとうございました